

(22) イカナゴ資源生態調査

調査方法

1. 仔魚分布調査

1) 調査実施日

第1回調査：2008年1月7、8日

第2回調査：2008年1月21、22日

第3回調査：2008年2月4、6日

2) 方法

ボンゴネットによる湾内12点での往復傾斜曳き採集

2. 漁獲物測定調査

1) 調査実施日

2008年2月28日～3月13日

2) 方法

中部地区の岸和田市漁協と南部地区の深日漁協において、漁期間中の漁獲物を原則として1週間に1回以上の頻度で採取し、100尾について全長を測定した。

調査結果

1. 仔魚分布調査

調査の結果をもとに、2008年2月12日に発表した「イカナゴしんこ漁況予報（平成20年）」を「資料1」として示す。

2. 漁獲物測定調査

測定結果を表1に示す。

担当者

日下部敬之、大美博昭、中嶋昌紀

表1 イカナゴ資源生態調査、漁獲物測定調査結果

漁協名	平均全長(mm)	標本標準偏差
2008/2/28 深日	32.6	7.15
2008/2/28 岸和田市	33.7	6.32
2008/2/29 深日	44.7	6.60
2008/3/1 岸和田市	36.4	1.44
2008/3/3 岸和田市	31.6	1.46
2008/3/5 深日	39.3	1.48
2008/3/6 岸和田市	33.0	1.49
2008/3/8 岸和田市	43.7	8.40
2008/3/11 岸和田市	37.5	4.62
2008/3/11 深日	53.3	14.28
2008/3/11 深日	45.3	8.80
2008/3/13 岸和田市	47.2	6.41

各サンプルとも100尾を測定。

イカナゴしんこ漁況予報(平成20年)

平成20年2月12日

大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター

◎水温(図1)

水温の高低は、イカナゴ親魚の産卵時期(水温低下が産卵の引き金となる)や、ふ化した仔魚の成長(水温が高い方が成長が速い)、生き残り率(低水温の方が良い)などに影響を与える。今冬の水温は、1月前半までは平年よりやや高めで推移してきたが、1月後半は平年をやや下回り、その後2月上旬は平年並みとなっている。気象予報の2月の気温予測も考え合わせると、水温は今後しばらく平年並みで推移するものと考えられる。

◎季節風(図2)

季節風(特に西風成分)は、播磨灘から大阪湾に向かう海流を強め、イカナゴ仔魚の大阪湾への流入量を増大させる。また、仔魚の散らばりを促進することによって、生き残りにプラスに働く。今冬の西風は、1月上旬は平年並みであったが、その後1月中旬～2月上旬は平年を下回っている。

◎産卵量および産卵期

兵庫県水産技術センターは、大阪湾で漁獲されるイカナゴのおもな産卵場である、播磨灘鹿ノ瀬海域で産卵親魚の調査を行なっている。その結果によると、今期の鹿ノ瀬海域での総産卵量は、昨シーズン(例年に比べて多かった)の0.09倍で、非常に少ない量であったと推定されている。一方、親魚の成熟状況と水温の推移から推定された産卵盛期は、12月26日～1月4日頃であり、昨シーズンとほぼ同時期であったと考えられている。

◎仔魚の出現状況(図3,4)

今期も、大阪湾内に設けた12の調査点において、プランクトンネットによるイカナゴ仔魚採集調査を3回実施した。

1月7、8日に行なった第1回調査では、採集された仔魚はわずかで、ふ化がまだ本格的に始まっていないと考えられた。

第2回調査は1月21、22日に行なったが、仔魚の出現数は1点あたり平均51尾で、昨年の約半分であり、例年同時期と比較しても少なかった。採集数が多かったのは湾の北部～中央部付近で、東部や南部海域への分散状況はよくなかった。平均全長は5.5mmで、ふ化後間もない個体はほとんどおらず、今期の産卵が一時期に集中して行われたことがうかがえた。

2月4、6日に実施した第3回調査では、1点あたり平均仔魚数は31尾であった。この数は例年と比較して必ずしも少ないものではないが、分布が非常にかたよっており、関西空港近くの1点できわめて多く出現したほかは、どの点も少ない採集数

であった。仔魚の平均全長は10.6mmで、昨年の同時期に比べて大きかったが、これは昨年の平均値が、主群より後に生まれた仔魚によってやや小さめとなっていたためであり、主群の成長はこの時点でほぼ昨年同時期並みであると考えられた。

◎イカナゴしんこの漁況見通し

以上のように、今期は水温条件はさほど悪くないが、産卵量が少なく、ふ化以降の西風の条件もあまりよくない。調査で採集された仔魚の数も全体に少なく、分散状況もよくない。これらのことから総合的に判断して、今年のイカナゴ漁開始時におけるしんこの資源量は、少なかった昨年前後で、近年の平均的水準を下回るであろうと予測される。なお、2月下旬～3月上旬時点でのしんこの大きさは、昨年とほぼ同程度であろう。

図1 大阪湾口部の水温変化

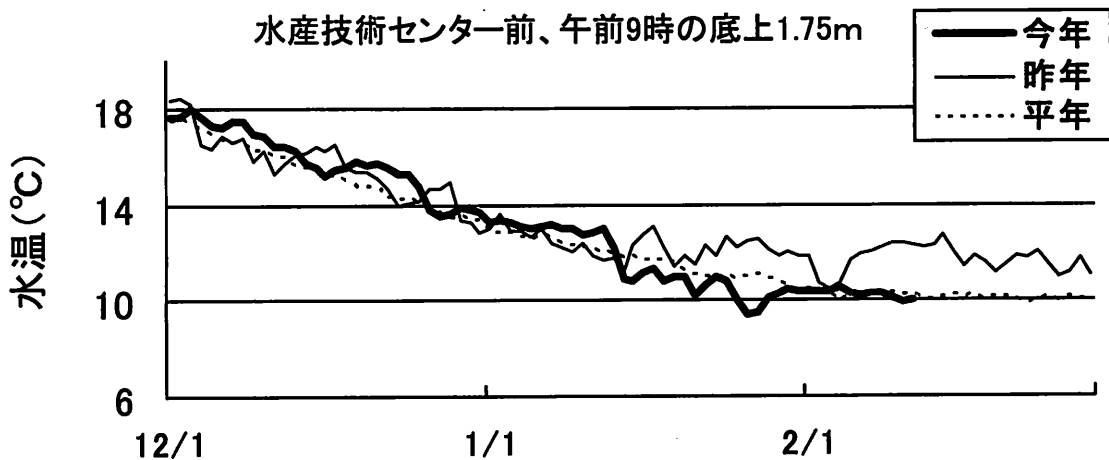


図2 西風成分の平年偏差

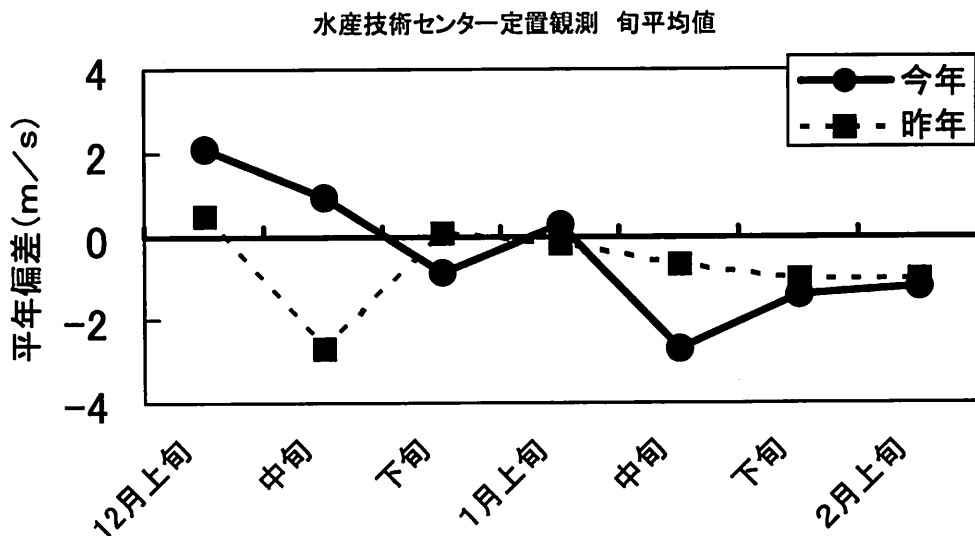
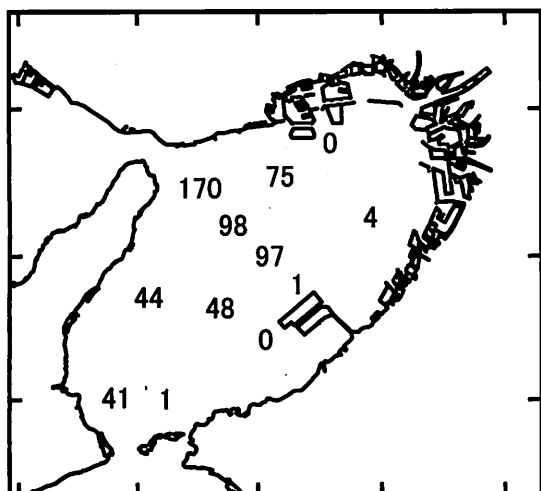
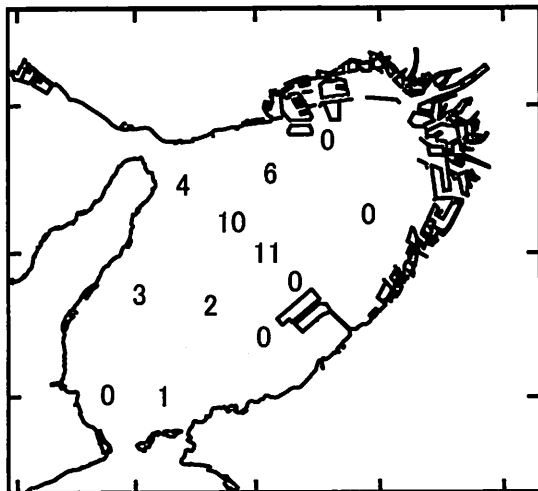


図3 イカナゴ仔魚の採集数

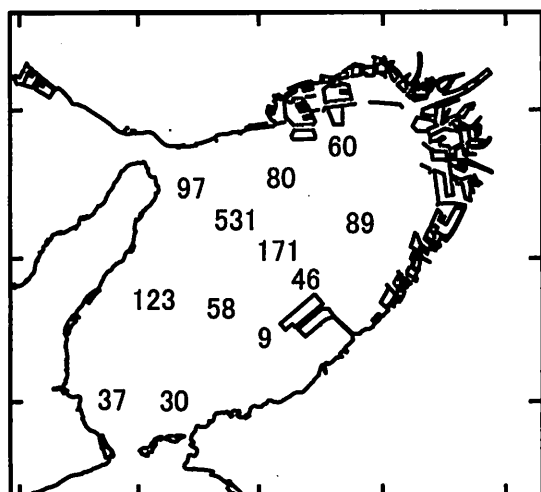
ボンゴネット斜め曳きによる、面積1平方mの水柱あたりの尾数。



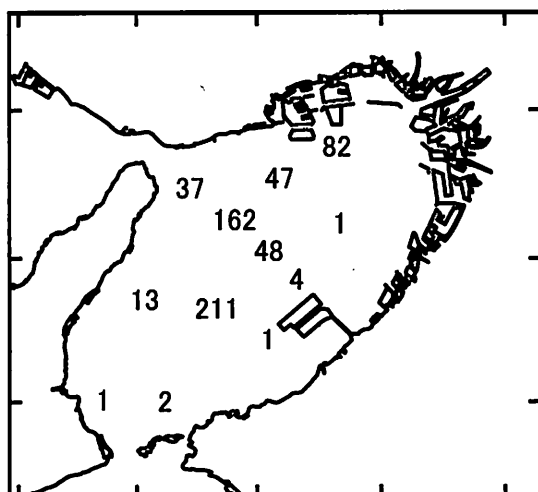
昨年1月9,10日 1点平均 48尾



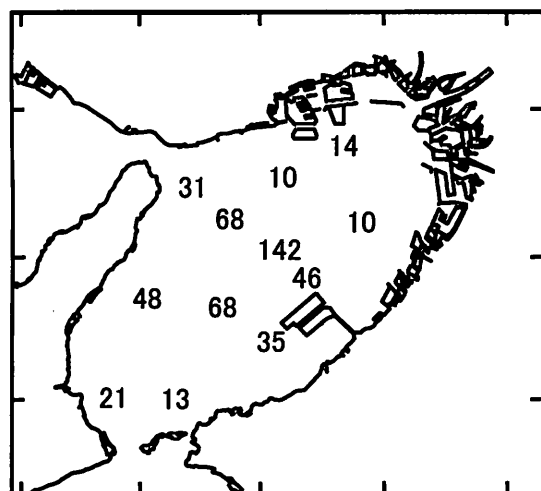
今年1月7,8日 1点平均 3尾



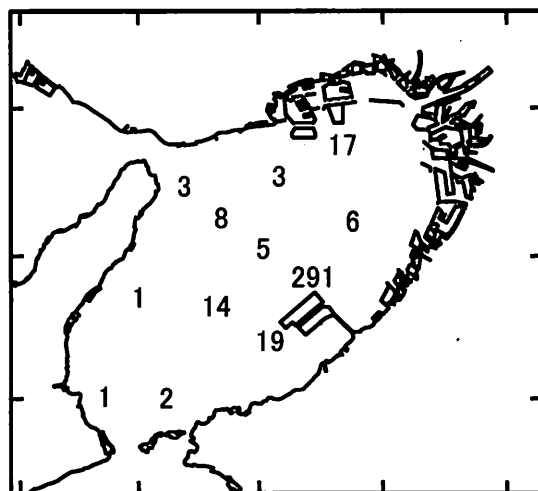
昨年1月22,23日 1点平均 111尾



今年1月21,22日 1点平均 51尾

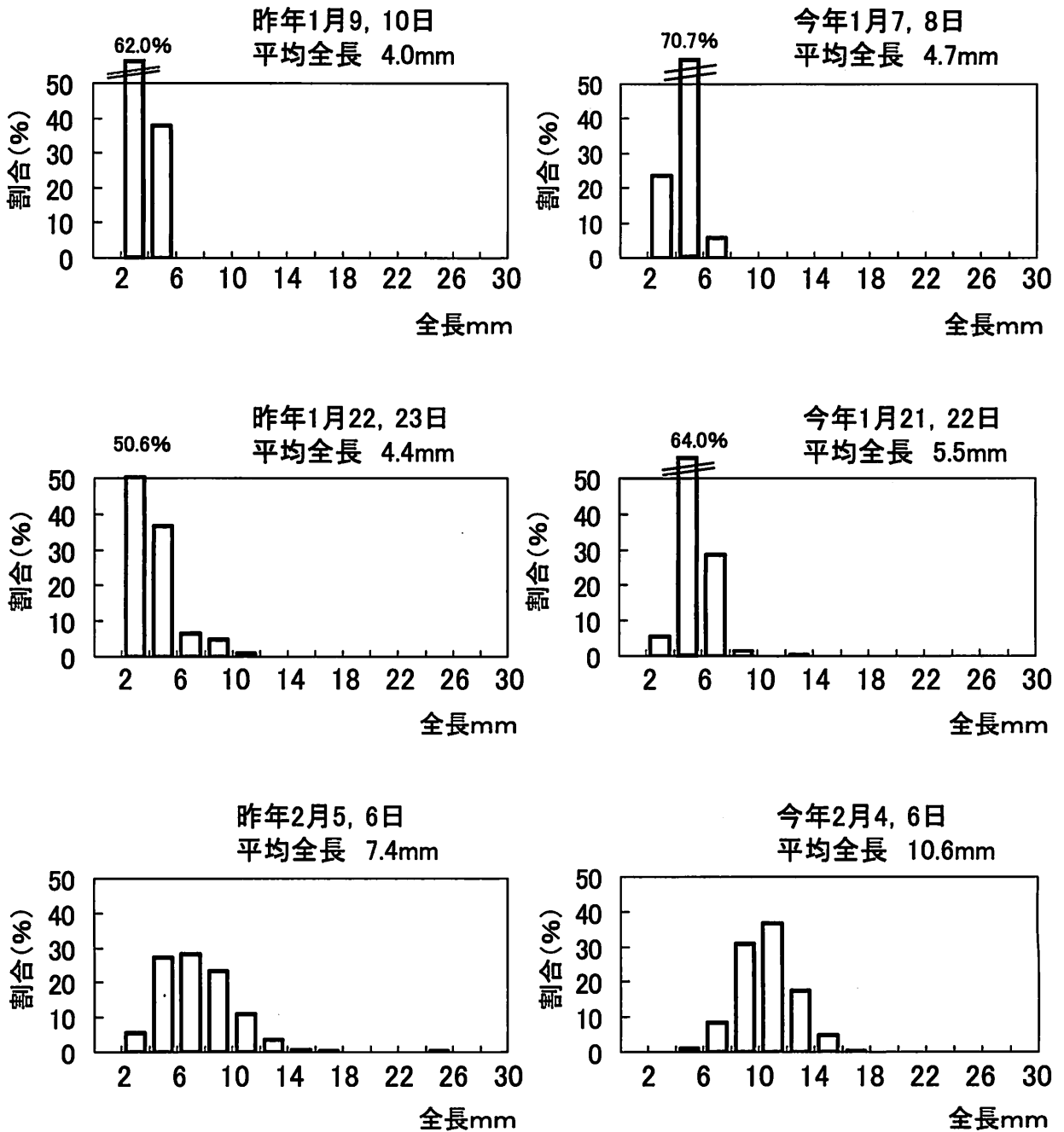


昨年2月5,6日 1点平均 42尾



今年2月4,6日 1点平均 31尾

図4 昨年と今年のイカナゴ仔魚全長組成の比較



昨年

今年